

「全鍍連」 2020年 6月号 巻頭言

全鍍連 総務副委員長 野村 重之 (アルファメック(株) 代表取締役社長)

「青年部交流会に参加して」



2月21日に開催された令和元年度組合青年部交流会に総務委員として参加した。第9回目となる今年度は長野鍍金工業組合が担当され、未来を担う若手の集いと2部構成である。

新幹線で京都駅から名古屋、名古屋から中央本線で塩尻、塩尻から篠ノ井線で長野へ4時間の列車の旅、天気もよく、寝覚ノ床、田毎の月、姨捨駅から見下ろす善光寺平と千曲川、特急しなのの車窓からの眺めは最高。暖かい冬のせいか周りの山に雪が少ないのが残念だった。

午後0時長野駅に到着、開会まで少し時間があり、あらかじめ調べておいたそば屋に行くと繁盛店かして行列ができていた。待つこと40分美味しい信州そばを頂けた。きれいな空気と水が作った自然の味、収穫である。

全国から、北青会、茨城県青年会、群馬県青年部会、埼玉鍍会、千葉県青年部会、神奈川県青年部、東京都青年部、長野県青年部、静岡県青年部会、名鍍会、石川県若手の会、福井県青年部、鍍秀会、青研会、兵庫県青年部会、四青会、九青会が参加。広い宴会場にテーブルは口の字にゆったりと配置され、全国17地区から参加した若手リーダー達37名が着座、壮観である。

草間副会長のご挨拶、全鍍連事務局からのご報告、続いて吉田委員長の司会により参加者から活動報告、近況報告等活発な情報交換が行われた。青年部主催の講習会開催、海外展示会への共同出展、埼玉めっきサーチライトの実演など若手らしい前向きな取り組みの発表があった。また、北青会より令和元年東日本台風関連の報告があり、突然被害を受けた時の対応方法など大変参考になった。

各地区からの出席者枠は代表2名だが、他にも出席したかった方が大勢いただろう。自分も若かったら参加したかったと思う。地元鍍金組合での活動は当然必要であるが、さらに他府県との交流は貴重である。青研会で育ち、十日会、名鍍会とで構成する日本鍍金協会の活動に参加することができ、良き先輩や何でも相談できる友達に恵まれたのは素晴らしいことだったと自分を振り返る。

各地区からの発表が終わったあと、この交流会と若者の集いを今後どうしていくかについて参加者より意見があった。大切なことだと思う。今後とも大いに議論していただきたい。

3時間ほどの青年部交流会はあっという間に終わり、17時より未来を担う若手の集いが開催された。第8回目の今回は長野県鍍金工業組合青年部の主催である。御来賓に加藤久雄長野市長をはじめ沢山の方々、今回大変お世話

になった長野県鍍金工業組合幹部の方々、そして長野県青年部と未来を担う若手の皆様。総勢 94 名、めっき業界の未来を期待させる勢いのある楽しい宴会だった。